



文豪ブーム到来!?(後編)



前編では、一風変わった文豪ブームについて書いていきましたが、登場した文豪・作品たちでも「名前は知っているけど、読んだことがない」というものがあったのではないのでしょうか。そこで今回の後編では、有名な文豪たちを、その代表作を交えながら紹介していきたいと思います。『作品名』をクリックすると青空文庫のページに飛びますので、興味が湧いた方はぜひこの機会に、文豪たちの作品を読んでみてください。

(※下記リンク先は外部サイトを含みます。よろしければ、クリックしてお進みください。)

中島敦 (1909~1942 : 享年 33)

病に倒れた悲劇の文豪。東京の駕籠(かご)屋の家に産まれるが、家業を嫌い、文学の道に進みました。教科書編集者としてパラオへ赴任している間に、執筆活動に取り組みました。しかし、帰国後すぐに喘息を悪化させ亡くなった為、その作品たちは死後に評価されました。

代表作 : [『山月記』](#) [『李陵』](#)

宮沢賢治 (1896~1933 : 享年 37)

地元岩手を愛し、理想郷(イーハトーブ)と名付けた詩人・童話作家。今も読み継がれている、数多くの童話を残しているが、その評価自体は彼の死後に付けられたものが多く、彼が作家として得た収入は5円(現在の2万円程度)のみでした。晩年に書いた「雨ニモマケズ」の誌は、病床に臥せながら書いたことでも有名です。

代表作 : [『銀河鉄道の夜』](#) [『注文の多い料理店\(作品集\)』](#)

江戸川乱歩 (1894~1965 : 享年 70)

日本の探偵小説の生みの親。名探偵・明智小五郎、少年探偵団、怪人二十面相などのキャラクター設定は、小説に限らず今でも受け継がれています。また、古今東西の探偵小説のトリックを分類別に整理した「類別トリック集成」は現在でも、トリック創作に大きな影響を残しています。

代表作 : [『二銭銅貨』](#) [『怪人二十面相』](#) [『少年探偵団』](#)

萩原朔太郎 (1886~1942 : 享年 55)

日本近代詩の父と称される詩人。群馬県前橋の有名な医者(医師)の家に産まれるが、家業に全く興味がなく、文学の道へと進みました。当時、多くの詩が文語体で書かれていたのに対し、口語体で表現された萩原の詩は高い評価を得ました。

代表作 : [『月に吠える』](#) [『青猫』](#)

他にも気になる情報がいっぱい! [Dr.関塾 佐須街道校](#)

(※作成日 : 2017年2月23日)